

公衆衛生医師確保に向けた取組

事 例 集

平成 28 年 3 月

目 次

I. はじめに.....	1
II. 公衆衛生医師確保のポイント.....	2
III. 各地域における取組.....	4
①効果的な広報活動や募集の門戸拡大等、攻めの姿勢の医師確保策（青森県）.....	4
②「公衆衛生医師育成プロジェクト」：県と大学のコラボレーション（群馬県）.....	5
③大規模な周知活動とキャリアパスを見据えた人材育成・定着支援（東京都）.....	5
④臨床・研究と公衆衛生の両立：専門性も高められる大学・保健所の兼任体制（京都府）.....	5
⑤“やりがい”を高める研修・職務制度づくりの取組（大阪府）.....	5
⑥医師確保と育成・定着は車の両輪：研修会を母体とした定期的な情報共有（福岡県）.....	5
⑦女性医師ネットワークを活用し、「行政は楽しい！」活動姿勢の積極的アピール（長崎県）.....	5

1. はじめに

1. 事例集作成の目的

公衆衛生医師確保の困難さを背景に、平成 23 年度より地域保健総合推進事業において、公衆衛生医師の確保・人材育成に関する調査および実践事業として、実態調査や研修、セミナー等を実施してきました。平成 23 年度事業における若手医師に向けた公衆衛生医師パンフレットの作成や、平成 26 年度事業における公衆衛生医師確保のためのガイドライン案の作成など、公衆衛生医師確保のための様々なツール開発も実施してきたところです。

これらを受けて、全国の各地で公衆衛生医師不足を解消すべく、様々な取組が開始されています。大学等との連携や女性活用を柱とする取組など、公衆衛生医師の確保に成功している地域も見られていますが、依然として医師確保が困難となっている地域もあります。そのため、当該取組が成功している地域の状況を取り上げ、好事例として情報提供することとなりました。

この事例集は、全国で取組まれている公衆衛生医師確保のための方策を地域に紹介し、取組内容や工夫などを参考に、自地域での医師確保策の工夫につなげていただくことを目的に作成しています。

2. 想定する読者と活用方法

この事例集は、各自治体で公衆衛生医師の確保に関わる方々を読者と想定し、各地で取組まれている医師確保のための方策・工夫について取りまとめたものです。

本書で紹介している7都府県では、限られた資源の中、担当者の工夫により効果的な確保策を実施しています。今後、各地域で医師確保策を検討される際に、この事例集を役立てていただければ幸いです。

II. 公衆衛生医師確保のポイント

各自治体が工夫し、その自治体が持っている資源を活かした多様な取組が、公衆衛生医師確保を支えています。4頁以降で好事例として掲載された青森県、群馬県、東京都、京都府、大阪府、福岡県、長崎県に共通していることは、現場の医師と行政の担当の事務職員が力をあわせ、採用計画を策定し、密な連携を行うことで医師確保に努めていることです。事務職員は行政業務に不慣れな医師のサポートを積極的に行うだけでなく、医師確保に向けて情報を受発信したり、自治体内での受け入れ整備を行ったりします。現場医師は通常業務だけでなく、将来自分と働く医師を確保すべく、自治体としての広報に積極的に携わることによって、現場視点が入ったよりよい取組が可能となります。

本事例集で取り上げた地域の状況を踏まえ、ポイントを取りまとめました。

図表 公衆衛生医師確保のポイント

取組	内容
公衆衛生医師のPR	<p><u>公衆衛生医師の業務を知ってもらう</u></p> <p>→様々な媒体を用いて業務内容をPR、募集を周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスメディアを通じたPR、ホームページにてPR ・ホームページにて興味を持った医師が情報を取得しやすいようにホームページにて採用内容や業務内容を詳細に提示 ・パンフレットの作成・配布 <p>⇒①青森県、③東京都、⑤大阪府の事例</p>
キャリアパスの提示	<p><u>キャリアパスイメージをうまく描けない</u></p> <p>→興味を持った医師が自らのキャリアパスを明確にイメージできるようモデルイメージを提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先輩医師の経験を基にホームページにてキャリアパスのイメージ図を公開 ・個別相談の対応 <p>⇒①青森県、②群馬県の事例</p>
大学との連携	<p><u>安定した医師確保の基盤がほしい</u></p> <p>→自治体内の医学部設置大学と連携し医師を確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の専門医師との人事補完制度の設立 ・大学での講座の実施 ・研修医の受け入れ <p>⇒②群馬県、③東京都、④京都府、⑤大阪府、⑦長崎県の事例</p>
その他関係機関との連携	<p><u>安定した医師確保の基盤がほしい</u></p> <p>→病院と連携し医師を確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求人広告の周知及び業務内容をPR <p>→再就業支援機関と連携し医師を確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性医師や一度退職した医師を対象にパンフレットを配布 <p>⇒③東京都の事例</p>

取組	内容
医師ネットワークの構築	情報共有・周知の場として医師ネットワークを構築 → <u>県職員（医師）の研修会の開催</u> ・毎月1度研修会を開催、様々な情報を共有 →「 <u>女性医師の会</u> 」の活用 ・女性医師や一度退職した医師を対象に公衆衛生医師業務をアピール ⇒⑥福岡県、⑦長崎県の事例

○公衆衛生医師のPR

まずは「公衆衛生医師の仕事」を周知することが重要です。業務内容を理解していなければ、学生は自分の将来像の選択肢として公衆衛生医師を挙げることはできません。そのため、各地域では様々な媒体を活用し、積極的に業務内容をPRするとともに、募集状況を告知しています。自治体独自でパンフレットを作成したり、マスメディアを活用しつつ、できるだけ低予算で（あるいは追加予算なしで）工夫しながらPRを行っている例がみられました。

○キャリアパスの提示

公衆衛生医師を確保する上で、入職後にどのような将来が待っているのか、そのキャリアパスがある程度明確となっていなければ人は集まりません。各地域では実際の経験談やモデルケースとなる例をホームページ上で示したり、さらに職級と詳細な業務内容の例示や受けられる研修内容、モデル年収などを明示している例もありました。

○大学やその他関係機関との連携

保健所実習や大学での公衆衛生の講義など、学生とのかかわりは公衆衛生医師確保の上で外せないポイントです。今回の各地域でも何らかの形で大学との連携を行っていました。なかでも、大学と保健所の人事交流など、踏み込んだ形での連携を実施している地域もあります。また県の医師会などと連携し、医師ネットワークを構築している例も見られました。

○医師ネットワークの構築

行政で働く医師の研修会を定期的に行ったり、女性医師の会・大学・医師会と連携して女性医師ネットワークの構築を行い、キャリアプラン相談懇話会を開催してリクルートを行っている例もありました。医師同士の情報共有の場を確保し、活発に意見交換や入職候補者の情報交換を行い、リクルートにつなげている例もあります。

以上のような組織的なアプローチに加え、個別の直接アプローチも必要不可欠です。ほぼ一本釣りのような形でアプローチしている例もあり、各地で公衆衛生医師のリクルートのために様々な方法を有機的に組み合わせて工夫していました。

今回、好事例として掲載した青森県、群馬県、東京都、京都府、大阪府、福岡県、長崎県の事例を参考に、まずは各自治体において、一度自らの地域で活用できそうなリソースを再度確認してみてください。そこから採用のための目標を立て、具体的な取組を立案し、地道な周知・広報活動を行って公衆衛生医師の認知度を上げ、大学や医師ネットワークの構築などから積極的に情報の共有を行っていくことが、最終的には地域を守る公衆衛生医師として活躍する医師の確保につながります。